

国際青年

2025 年(令和7年) 5月1 日発行

第55号

埼玉国際青年を育てる会・会報

Saitama Association for International
Youth Volunteers

現地レポート

■太田百恵（鶴ヶ島市）

2024 年度 2 次隊 ヨルダン 障害児・者支援

ヨルダンで就労支援

ヨルダンに到着して 4 ヶ月が経ちました。ヨルダンは中東の中心に位置しており、周りはサウジアラビア、シリア、イスラエル、パレスチナ、イラクなどが隣接しています。出発する前は家族や友人から治安を心配されていました。現在、首都アンマンに滞在していますが、治安は安定しており、ご飯は美味しく、人々は優しく、思ったより過ごしやすい日々を送っています。



配属先は「障がい者や難民の方がより良い生活を送る」を目的に、複数のプロジェクトを展開しています。私が中心に関わっているのは、夕方に障害のある方が 10 名前後集まり、就労スキル向上のためのアクティビティを提供するプロジェクトです。スタッフはコミュニケーションスキル向上や、クリティカルシンキングのスキル向上な



ど、それぞれ担当に分かれ毎回異なる内容のアクティビティを行なっています。私はこれらに一緒に参加してサポートしたり、微細な運動スキル向上を目標に折り紙などを使用したアクティビティを行ったりしています。語学はやはり大きな壁となっており、思ったようにコミュニケーションが取れない日々です。しかし、スタッフへ「こういうことをやりたい」と伝え、利用者さんへわかりやすく伝えてくれ、終わったあとは「とっても良いアクティビティだと思う！」とポジティブな反応をしてくれます。

配属先のスタッフは意欲が高く、スキルもある方々です。協力隊員へは「いろいろなプロジェクトに参加し、できることを教えて欲しい」との希望があり、具体的な内容は決まっています。何ができるのか、団体に新しい風を入れるのを求められていると感じます。今年はこれから始まるプロジェクトもあるようです。初期段階である今は、スタッフとの信頼関係をしっかり構築できるようコミュニケーションをとり、人となりを知る、伝えること。また、プロジェクトの目的や内容を学び、自身にできること、やりたいこと、アイデアを出していきたいと思っています。（2025/3/19）

・ 現地レポート	1 ～ 6
・ 2024 年度 育てる会活動報告	7

・ 埼玉県 JICA 海外協力隊 Reunion	8
・ 事務局だより	8

■森 理紗（さいたま市）

2024 年度 1 次隊 マラウイ 小学校教育

任地での活動について

マラウイはアフリカ大陸の南東部に位置する小さな国で、世界遺産のマラウイ湖が有名です。最貧国として知られていますが、一度も戦争をしたことがなく、人々は温厚で「Warm Heart of Africa」と呼ばれている平和な国です。

私は首都リロングウェから 15 km 程西に位置するンジェワ地区で活動しています。要請内容はゾーン内の小学校を巡回して「表現芸術科目 (Expressive Arts)」の普及・改善で、実際に授業をしたり、先生方と技術共有をしたりしています。

表現芸術科目とは、音楽・図工・家庭科・体育・演劇・ダンスなどが合わさった科目で、技能的な内容が盛り込まれています。新設された科目であるため、先生方は知識や経験の不足から教えることに苦手意識をもっています。そのため、実技は行わず板書を写すだけで終わってしまう授業も見られます。さらに、マラウイの学校は財政的な問題から日本のように教具・教材がそろっているわけではありません。家庭状況によって生徒が家から持ってこられる材料にも限りがあります。

このような難しさを抱える表現科目の授業を充実させるために、私は日々学校を訪れ、先生方と共に授業を考えて実施したり、現地で手に入る材料の活用方法を考えたりしています。



これまでにを行った授業を紹介したいと思います。これは 7 年生の「ポスター作り」の授業です。この単位では、絵の具を身の回りで手に入る材料から作り、地域の風景を描くという授業を行いました。材料としては、炭・レンガ・葉っぱ・花など生徒が手に入れやすいものを選びました。石を使って材料をすりつぶし、布で濾してから水を加え混ぜると自然由来の絵の具の完成です。絵筆は木の枝や葉っぱから作りました。

普段は材料不足からグループで制作活動をすることが多いのですが、今回は 1 人 1 枚の紙を配り絵を描きました。生徒は自分の紙がもらえることに大喜びです。思い思いに、家や学校、植物や乗り物などを描き始め、教室はしーんと静まり返り集中して取り組んでいました。

普段の授業では目立たない生徒が細部まで丁寧に描いていて、いつもと違った一面が見られるのも嬉しい瞬間です。絵を乾かして教室の壁に掲示をすると、「これ私の絵だよー」と嬉しそうに紹介する姿も可愛らしいです。

もちろん日々の活動では落ち込むこともたくさんあります。そんな時に助けてくれるのは現地の人々です。

これからも人の温かさに触れ幸せを感じながら、感謝の気持ちをもって活動していきます。

(2025/3/20)

■原田泰子（飯能市）

2023 年度 3 次隊員 パナマ 障害児・者支援

盛大なパナマの祭り

こんにちは、育てる会の方々、いつも有難うございます。

派遣されて、一年が過ぎました。今回は 2 月末にあったカルナバルについて書きます。

中南米の国では 2 月にカルナバルがあり、どの国でも国を挙げての一大行事となっています。



ペノメの夜

パナマでも、官公庁や殆どの会社が 2 月 27 日～3 月 5 日の祭りの間は、カルナバル休暇となります。大きな町では舞台が設置されて、音楽が鳴り響き沢山の人が集まって踊ります。日中は暑いので放水車が出て、集まった人々に水をかけま

す。それゆえパナマの昼のカルナバルは、通称「水掛け祭り」と呼ばれています。祭りではレイナ(女王という意味)が決められて、複数のレイナが美しく着飾って舞台や放水車に乗ったり、荷車で踊ったりして祭りを盛り上げます。特に夜は、人々は伝統的な衣装(ポジェーラ)を着て、レイナの踊る荷車のまわりを踊りながら行進します。



パナマシティのカルナバル

私は、前半は任地であるペノノメでホストファミリーと一緒に過ごし、後半はパナマシティに移動して、隊員4人でパナマシティのカルナバルを楽しみました。写真は、ペノノメの夜の様子とパナマシティのものです。(2025/3/18)

■成川しのぶ(朝霞市)

2024年度2次隊 インド 日本語教育

春の訪れを祝う Holi 祭

私は JICA 協力隊の 2024 年度 2 次隊員で、昨年 12 月から北インドのデラドゥンという地方都市にあるドゥーン大学で日本語教育を行っています。住居は大学内のゲストハウスで、バルコニー



からはヒマラヤ山脈を臨むことができます。

インドは暑いというイメージがあるかもしれませんが、ここデラドゥンはしっかり冬があり、12月から2月までは部屋の中でヒートテックにセーター、その上にフリースを羽織り、ヒーターなしでは生活できませんでした。そんなデラドゥンにも一気に春がやってきて、キャンパス内には色とりどりの花が咲いています。

先日3月14日は春の訪れを祝うお祭り「Holi(ホーリー)祭」でした。これは「色の祭り」とも呼ばれ、いろいろな色の粉を誰彼かまわず顔に塗り付け「Happy Holi!」と言い合います。



家の前を歩いている人やバイクで通り過ぎる人にも、水鉄砲や水風船で色水をかけます。この日は無礼講で、誰も怒ったりしません。(ただし、顔に何も塗られていない人は宗教が違うかもしれないので控えていました) 最後にはいろいろな色が混ざり合ってゾンビのような顔になりますが、そのままの顔でご近所に挨拶に行き、Holi の特別なお菓子をいただきます。特に「グジャヤ」というお菓子は有名で、牛乳、砂糖、ナッツ、ドライフルーツなどを煮詰めたものを中に入れて、餃子のような形に成形して揚げたパイです。グジャヤ用の型もあります。家庭によって微妙に味や大きさが違います。

大学では、この時期に帰省する学生がいるため2日早く Holi Fest が開催されました。私は汚れてもいいように赤い T シャツを着ていきましたが、学生たちは真っ白な T シャツやクルタを着ていてびっくりしました。カラフルな色が目立つようにという逆の発想だそうです。

Holi が終わると、季節は一気に春から夏へと進むのだそうです。これから 40℃ 超えの暑い夏がやってきます。(2025/3/19)

■白川真生（三郷市）

2023 年度 1 次隊 東ティモール 体育

東ティモールでの生活について

生まれてから大学を卒業するまでの約 22 年間で過ごした埼玉県を、期待と不安を胸に旅立ったあの日を今でも鮮明に覚えています。ふと気が付くと、東ティモールにきたあの日から 1 年半が経とうとしています。現地での生活も赴任当初に比べずいぶんと慣れてきました。



今、私は JICA 海外協力隊の体育隊員として東ティモールの首都ディリにある中高等学校で活動しています。主な目的としては、“実技体育の普及”と“教育の質の向上”です。東ティモールの体育は日本のものとは大きく異なり、知識を習得することに重点が置かれているため座学中心で行われています。椅子に座って机に向かい筆記用具を持って体育を学ぶ姿を初めて見た時には、衝撃的だったことを覚えています。実際に身体を動かす実技を多く取り入れ、身体を動かす楽しさを伝えることで「生涯にわたって主体的に運動を行う生徒」が増えるような教育体制を作ること为目标に活動をおこなっています。

東ティモールの人々は明るく気さくで親切であると強く感じます。街中で初めてすれ違う人ともお互いに挨拶を交わすのがこの国の日常です。人と会話することには大変好意的で、至る所で人々が会話を楽しんでいる様子が見られます。

食事というのは、日本と同様に米を主食としており、野菜や肉などを材料としたおかずとともに食べます。こちらの人々は、Ai-manas（アイマナス）と呼ばれる唐辛子を使用した薬味のようなものを大変好んでおり、いわゆる“味変”のためにとにかくどんな料理にも使用しています。これが私にとってはとても辛く食べるのに一苦労です。辛すぎることを同僚や他の現地の人々に伝えると、とても笑われます。市場に行くと肉や野菜、果物などが豊富に並んでいます。ここで良い食材



を探すのが通勤時のひそかな楽しみです。この国ではインドネシア料理やポルトガル料理も楽しむこともできます。インドネシア料理はどれも美味しいものばかりですし、ポルトガルのワインは絶品です。この国はコーヒーの産地でもあり、街中にはカフェが多くあります。これもまた絶品で、現地の方々もよくコーヒーを楽しんでいます。

そんな素敵な国での活動も残り半年ほどとなりましたが、精一杯頑張ります。（2025/3/3）

■加地正典（さいたま市）

2023 年度 3 次隊 ボツワナ コンピューター技術

ボツワナと ICT（情報通信技術）

ボツワナに着任して 9 ヶ月が経ちました。ボツワナは、南アフリカとナミビア、ザンビア、ジンバブエに囲まれた内陸国で、雨がほとんど降らず、カラッとした気候です。私はローカルフードにも馴染んですっかりボツワナ人の生活をしていますが、食品、特に野菜の種類は少なく、流通も安定していないのが日本との大きな違いです。近年、輸入に頼らない農業に力を入れているようですが、そのことも影響しているようです。



旧宗主国がイギリスということで、車は左側通行で右ハンドル、日本の中古車がとても多いです。カーナビがついている車も多いですが、言語切り替えの機能はほぼついておらず、よく聞かれて確認するものの設定できたことはほとんどありません。

ん。せっかくあるのにもったいないなと思う一方、カーナビが必要なほど都市が複雑でもありません。

私はコンピューター技術隊員として派遣され、技術短期大学の ICT サポートチームに入って活動しています。いまやスマホが普及しスタッフも学生も、セキュリティの人もクリーニングの人も、多くの人がスマホを使っています。構内の ICT 設備はひとたび整備されるとなかなか更新されず、古い機器が稼働し続けていたりします。



使うのには慣れていても、管理や運用がうまく行われておらず、壊れたら使うのをやめているといったことも多々見られます。数ヶ月活動して、困りごとに備えをするという感覚も日本にいた時とは違って、一概にこれまでの経験がそのまま使えるということではないなと感じています。

活動先の同僚と、一緒に考え、自走できる取り組みを一つでも多く残せたらと思って日々取り組んでいます。(2024/10/9)

■森泉智子（さいたま市）

2023 年度 2 次隊 タイ SV 障害児・者支援

タイの生徒達の笑顔は最高！

私は、チェンライの特別支援学校で 2023 年 11 月より教師をしています。

私は、35 年前に美術大学院終了後に協力隊でタイのチェンマイ高専で陶磁器を教えました。

帰国後、イギリス留学、神学校、テレビ関係の仕事の後に特別支援学校教員を常勤でしつつ両親の在宅看護を 25 年間。障がいのある生徒が芸術及び個性を大切にした教育で能力が伸び輝く笑顔を見て、教員定年退職後にタイの障がいのある生徒達も同様に伸ばしたいと願い再びタイに着任。

学校は、仏教ですが生徒と教員にクリスチャンが 10% おり他の宗教にも寛容です。生徒は、幼稚園～高校生迄知的障がいのある生徒が 400 人の全寮制です。教員も敷地内教員住宅に住み 24



時間生徒指導をします。私は、朝礼で一日一語の日本語を教え、半年毎に 3 学年ずつ上がりタイ語、外国語、算数、道徳、美術等専任授業を受け持ち、2 年間で全生徒を教えます。私が新しく個々の実態に合わせた個別指導を取り入れ、その結果、生徒ができる様になり自信を持ち成長する姿に学級担任は驚きました。

又、作業学習では商品のデザインを教え、出来た商品の販売経路を開拓、お店に置いて頂き、売れて皆驚きました。その事が教員と生徒の意欲に繋がりました。学校の珍しい行事では、教員や母や父を敬う日があり尊敬や礼節を学びます。

私の生活面では、住宅の先住巨大ネズミが天井に穴を開け、部屋を替えるとシャワー室を開けた瞬間天井が崩壊しましたが修繕して下さいました。外では野良犬に咬まれ、24 時間以内にワクチン接種をしないと 100% 死ぬといわれて病院に行き今は元気です。様々なことが次々に起こり命がけですが、生徒の輝く笑顔は最高の喜びです。

私は毎週日曜日にキリスト教会に行き、気分が一新して新しい一週間への活力を頂きます。



協力隊が 60 年前に世界を変えたいと第一歩を始めた働きが今日迄続き参加でき本当に感謝です！

私自身も若き日に協力隊員として参加し、その後の人生が『自分の力で生きている』のではなく『自分は生かされている』と 180 度変わり豊かになりました。今回、年を重ね参加し更にも増すこの恵は計り知れません。

この貴重な機会が与えられ共に過ごすタイの方々、この働き、そして日本の皆々様に心より感謝致します。(2025/3/27)

■山本安津子（伊奈町）

2024 年度 1 次隊 インド 日本語教育

クジャラートと日本の融合イベント

こんにちは。私は、インド西部のグジャラート州アーメダバード市で日本語教育の活動をしています。活動場所は職業教育・生涯教育を行っている NGO です。そのため学習者は幅広い年齢層の方になります。小学生から、社会人、退職後の方までさまざまです。

日本語学習の目的も、それぞれ異なりますが、その中でも多いのは将来、日本のアニメ業界で働きたい、アニメーターになりたいという方です。将来の夢に向かって目をキラキラさせながら日本語学習に取り組む彼らのひたむきな姿には、自分も励まされています。また改めて、外国の若者に夢を与える日本アニメの偉大さを痛感しています。



グジャラート州は兵庫県と、アーメダバード市は神戸市と姉妹都市となっており、印日交流が積極的な土地柄で、在アーメダバード日本国名誉領事館が 2024 年 10 月 4 日に発足しました。

アーメダバードに在住する日本人に対するサポートも今後、ますます積極的になっていくと思います。

そして赴任直後、自分の初となる任務は日本語の授業ではなく、在アーメダバード日本国名誉領事館の開設イベントにおいて、地域の住民や日本人の皆さんと日本の踊りを 3 つ踊れるように練習



することでした。その 3 つの踊りは、グジャラートの踊りとの融合をイメージさせるような踊りがよいというオーダーがあったので、鳥取県の傘踊り、富山県のコキリコ踊り、そして福岡県の炭坑節を選びました。理由は、グジャラートの踊りにも傘を使った踊り (CHHATRI Dance)、こきりこ踊りのように棒を使った踊り (RAAS)、手を叩きながら回る踊り (Garba Dance) といった日本の踊りと類似した踊りがあるので、これらの踊りを交互に踊ることにより、インドと日本の踊りの共通点を観客の方に楽しんでいただけたかなと思いました。踊りの経験は、ほとんどなかったので毎日動画を見て覚えました。現地の皆さんと初めて交流を図る場が踊りの練習になるとは想像もしていませんでしたが、音楽やダンスを通じて繰り返し練習を共にしながら、皆で心をつなげた充実した時間を過ごせました。

日本人の皆さんは、毎日仕事が終わってから現地の方に日本の踊りを伝えるサポートをしてくださいました。

皆さんのご協力のおかげでイベントはとても盛り上がりました。着任早々、本当に素晴らしい経験をさせていただきました。皆さん、ありがとう！

(2025/3/21)



● 2024年度 育てる会活動報告 ●

★ 2024(令和6)年度 壮行会

- JICA 海外協力隊 2024 年度 2 次隊壮行会
2024 年 11 月 19 日(水) 12:00 ~
伊勢丹浦和店 アズーリ クラシコ

榎本副会長の司会で、主催者及び埼玉県生活部国際課副課長 吉田様、JICA 東京所長 田中様、(一社)協力隊を育てる会事務局長 大石様のご挨拶後、2024 年度 2 次隊員 23 名が抱負を述べられました。



協力隊員の派遣国は、タンザニア、ブラジル、ベトナム、カメルーン、モロッコ、パラオ、ニカラグア、ボツワナ、グアテマラ、モザンビーク、インド、メキシコ、マレーシア、タジキスタン、セネガル、ヨルダン、コスタリカの 17 カ国。

職種は、PC インストラクター、陸上競技、青少年活動、コミュニティ開発、看護師、家政・生活指導、小学校教育、観光、環境教育、廃棄物処理、野球、保健師、日本語教育、作業療法士、服飾、障害児・者支援の 16 種。

コロナ感染症が落ち着き、活気が戻ってきたようです。

最後に、大野理事から隊員 OB 激励のことば、参加者を代表して野村理事から海外における注意事項、高野理事より現地レポートの要請をそれぞれいたしました。(川嶋 清)

- JICA 海外協力隊 2024 年度 3 次隊壮行会
2025 年 4 月 10 日(木) 12:00 ~
伊勢丹浦和店 クローバールーム

榎本副会長の司会で、主催者及び埼玉県生活部国際課副課長 小俣様、JICA 東京所長 紺屋様のご挨拶後、2024 年度 3 次隊員 9 名が抱負を述べられました。



協力隊員の派遣国は、コスタリカ、タイ、ザンビア、ブラジル、ラオス、ジンバブエ、ボツワナ、マダガスカル、ウガンダの 9 カ国。

職種は、環境教育、コミュニティ開発、日本語教育、コンピューター技術、バトミントン、看護師の 6 種。

2022 年度に参加した帰国隊員も 5 名参加予定でしたが、棚山祥子さん(ケニア・青少年活動)、末永りおさん(エジプト・環境教育)、館野友謹子さん(グアテマラ・コミュニティ開発)の 3 名が参加されました。

最後に、大野理事から隊員 OB 激励のことば、参加者を代表して野村理事から海外における注意事項、高野理事より現地レポートの要請をそれぞれいたしました。(川嶋 清)

■入会のご案内

当会では、随時会員を募集しております。

是非お知り合いの方をご紹介下さい。申し込み書などは事務局に用意してあります。お気軽にお問い合わせください。

■年会費納入のお願い

1. 令和 7 年度の年会費の納入をお願いいたします。
なお、令和 6 年度の年会費を未納入の方は、併せて納入をお願いいたします。

- (1) 個人会員：一口 3,000 円
- (2) 団体会員：一口 10,000 円
- (3) 法人会員：一口 20,000 円
(いずれも一口以上)

2. 納入方法

- (1) 銀行名：ゆうちょ銀行
- (2) 店名：〇一九店(ゼロイチキュー店)
- (3) 口座番号：0663484
- (4) 加入者名：埼玉国際青年を育てる会

3. JICA が発行する青年海外協力隊の月刊誌「クロスロード」を希望される方は、年間送料 ¥2,000 円を併せて納めて下さい。

★埼玉県 JICA 海外協力隊 Reunion

時：2025年3月9日 14：00～16：45

場所：川口市 メディアセブン

主催：JICA 東京 埼玉デスク

埼玉国際青年を育てる会

青年海外協力隊埼玉県 OB 会

埼玉デスク高橋様の司会で始まりました。

続いて主催者である JICA 東京の深町様と OB 会の榎本会長が、主催団体の紹介と事業内容について話されました。その後、参加者はグループに分かれて自己紹介と懇談会を行いました。

メインイベントの帰国報告では、以下の方々が体験を話されました。

橋本正美様（ガテマラ・数学教育）2018年に派遣されましたが、コロナ禍で一時帰国。2022年に再赴任し、現地教育の向上に尽力しました。

棚山祥子様（ケニア・青少年活動・2022年）施設での活動を通じて、収容者の教育とスキル



アップに努めました。ビーズクラフトやアートセラピーなどを取り入れ、非行少年の更生に貢献しました。

出居 正様（パラオ・小学校教育・2022年）定年直後に派遣され、現地の子どもたちに算数を教えました。長年の教師経験を活かし、教育活動を成功させました。

帰国報告後は再びグループに分かれて会談し、代表者がその内容を発表しました。最後に榎本 OB 会会長が閉会の挨拶を行い、記念写真を撮りました。（大野信一）

■事務局だより

「混沌の世界の中で迎える 30 周年」

今日、世界的な協調を必要とする懸案は数限りなくあります。

また、人口減少、過疎化など日本の課題も尽きません。厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、日本の人口は 2050 年に 1 億 468 万人となり、2020 年からの 30 年間で 17% 減の見込みです。

さて、時は進み、当会は本年 30 周年を迎えます。設立は平成 7 (1995) 年 10 月 1 日でした。その当時、青年海外協力隊の派遣隊員壮行会の会場である「A・A センター」（アジア・アフリカセンター）へ派遣隊員を引率した日のことが昨日のこのように思い出されます。竹内克好初代会長及び大野正雄副会長はじめ「さいたま国際青年を育てる会」（さいたま市誕生後、さいたま国際青年を育てる会から埼玉国際青年を育てる会へ変更）の役員の方々が派遣隊員を歓迎してくださいました。

星野和央顧問は二代目の会長として平成 27 (2015) 年の定期総会時に、創立 20 周年記念講演を行いました。

そして、本年、三代目の時田巖会長の下で 30 周年を迎えることとなります。

今年 11 月には 30 周年記念事業を計画しております。時機をみて、会員の皆様方や関係者の皆

様方にお知らせする予定です。

私自身事務局長としての 10 年の出来事が走馬灯のように浮かびます。壮行会の折に、「2 度目の派遣です」という隊員の方にお会いする機会もあり、隊員の皆様方の頑張りに元気を頂いております。

JICA 海外協力隊の皆様活躍を願うものです。

結びに、会員の皆様方のご支援に感謝申し上げます。（事務局長 矢部保雄）

■編集後記

今回も、たくさんの現地レポートをお寄せいただきありがとうございました。

壮行会では、不安と希望を抱きながら赴任地へ赴く隊員たちに、先輩の帰国隊員たちが声をかけていました。しっかりとバトンが渡され、繋がっていくようで、心温まるものを感じました。

新規派遣隊員のご活躍と現地レポートを楽しみにしております。（広報委員長 中島美都里）

- ・発行：埼玉国際青年を育てる会
- ・編集：広報委員会
- ・事務局：埼玉県鴻巣市下谷 1576
矢部 保雄
TEL・FAX 048-543-1355
E-mail: yasuo.y08@gmail.com
・<http://www7b.biglobe.ne.jp/~saitamakokusaiseinen/>